

計画の概要

1 計画の位置付け

推進計画は、2025年度までを見通した長期的な計画である「横浜市一般廃棄物処理基本計画（ヨコハマ3 R夢プラン）」（2011年1月策定）を進めるため、2018年度からの4か年に取り組む施策を示した計画です。

2 計画期間

2018年度～2021年度

3 考え方と基本目標

1 考え方

分別が一定程度定着している中では、ごみ量の削減という一つの目標を追求するだけでは、大幅なごみ量の削減は期待できなくなっています。一方で、環境負荷の低減に向けては、引き続き、一人ひとりの排出量を一層削減していく必要があります。

これからは、市民・事業者の皆様が循環型社会について考え、自主的で自分らしい行動に移してもらうための取組が重要です。ライフスタイルやビジネススタイルにおける、その人らしい3R行動を大切にしながら、「横浜らしい循環型社会」に向けて、多分野連携などにより、全ての取組を進めます。

また、複数の課題を同時解決していくことも重要であることから、「SDGs」のアプローチを取り入れ、環境負荷の低減や環境行政としての循環にとどまらず、福祉とつながる取組や市民ニーズを踏まえたきめ細かな取組、経済活性化につながる取組などを進めます。

2 基本目標（第4章）

推進計画では、これまでの「ごみと資源の総量削減」「ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス削減」を引き続き「基本目標」とします。また、基本目標の達成に向けて、特に重点的に取り組むものとして「戦略目標」を設定するとともに、最終処分場の残余年数を指標として設定します。

4 施策体系

1 5つの「つながる」プロジェクト(第5章)

社会を取り巻く環境が変化している中、これからの廃棄物行政は、様々な分野とつながりを持って進めていくことが必要となります。

こうした視点で5つの「つながる」プロジェクトを立案しました。この「つながる」プロジェクトは、推進計画において、各政策を進めるにあたっての方向性を示すとともに、先導的役割を有する重要な事業と位置付けます。

2 9つの推進政策(第6章)

これまで、市民・事業者の皆様のご理解・ご協力、さらに連携のもと、市民生活の安全と安心を支える廃棄物処理を行ってきました。

今後も、市民の行動様式や価値観等の変化の中、適切な見直しを行いながら進めていく必要があり、こうした取組を9つの推進政策として位置付けます。

3 施策体系

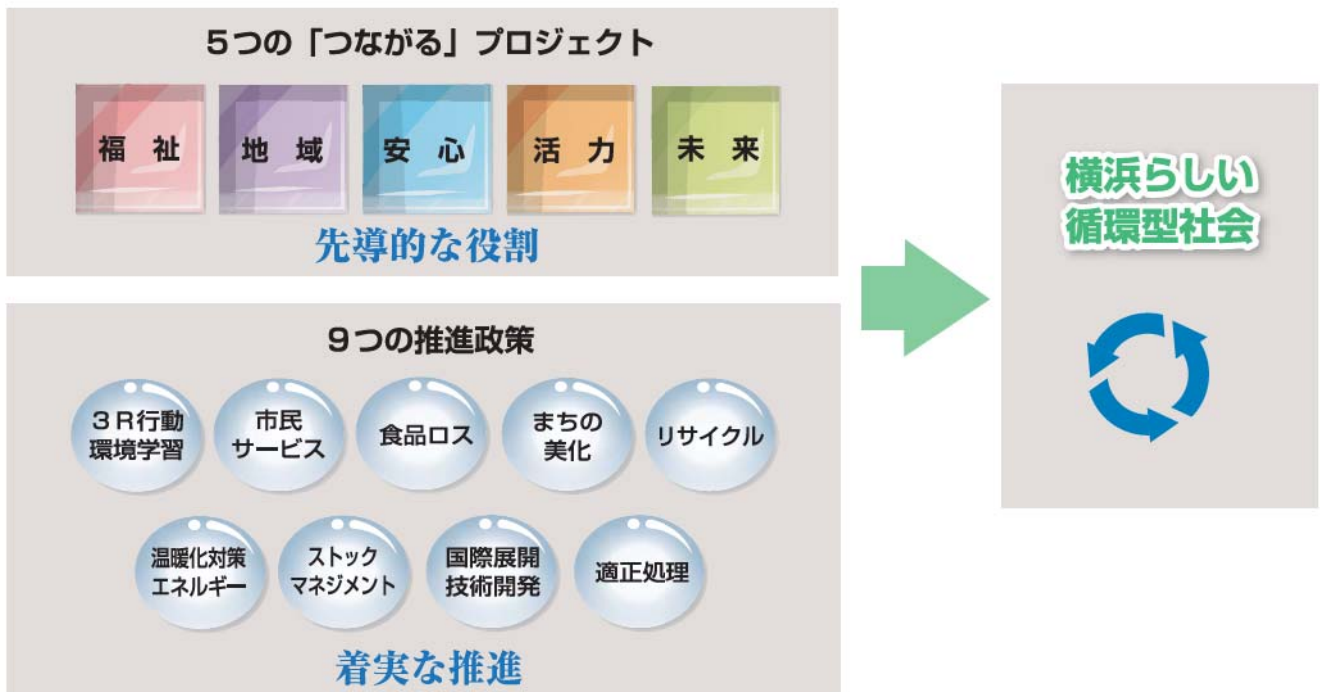


図 12 施策体系のイメージ

4 推進計画とSDGs(第7章)

循環型社会の形成は、SDGsにおける17のゴールのひとつである「持続可能な生産消費形態の確保」の達成に向けた重要な取組です。推進計画では、5つの「つながる」プロジェクトや9つの推進政策との関わりを示します。

目 標

1 ごみと資源の総量の今後の見通し

1 | 家庭系の動向

家庭系のごみと資源の総量については、ごみ量・資源化量のそれぞれについて、過去の実績から1人1日当たり発生量（以下、「原単位」という。）を算出し、この原単位の実績に基づく将来予測を行ったうえで、将来予測人口を乗じて2030年までの発生量予測を行いました。

その結果は、図13に示す通りで、家庭系のごみと資源の総量は、2025年までは人口減少を上回るペースで減少が進み、それ以降は人口減少と同程度で進むと予測しています。

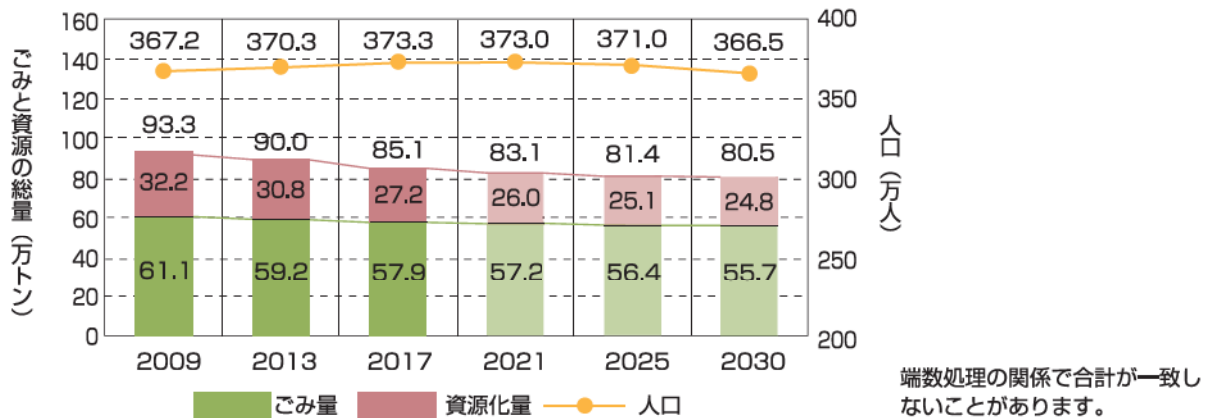


図13 家庭系ごみと資源の総量（実績値と将来予測値）

2 | 事業系の動向

事業系のごみと資源の排出量については、景気動向、事業所数、従業員数等の様々な要因が影響するものと考えられますが、過去の実績からは明確な相関が得られないことから、直近3か年の平均値で推移するものとししました。

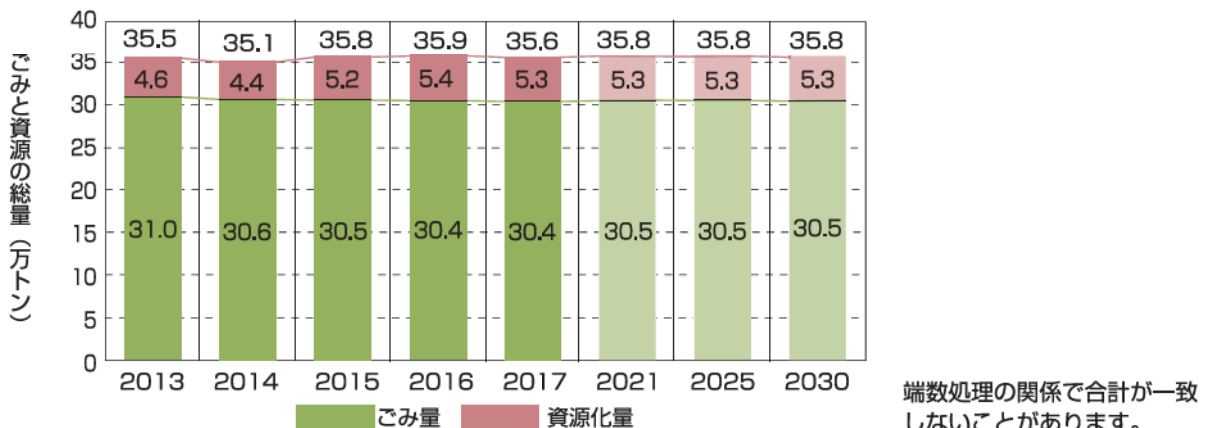


図14 事業系ごみと資源の総量（実績値と将来予測値）

3 ごみと資源の総量(家庭系+事業系)の動向

ごみと資源の総量は、2017年度で2009年度比▲5.3%(120.8万トン)となっており、目標(2009年度比5%以上削減)を達成しています。

また、今後の家庭系と事業系を合算した、全体のごみと資源の総量は、図15に示すように、減少傾向を維持します。しかしながら、2025年までに達成すべきヨコハマ3R夢プランの目標である114.7万トンに対し、将来予測では117.2万トンとなり、目標達成には、約2.5万トンの不足が見込まれます。

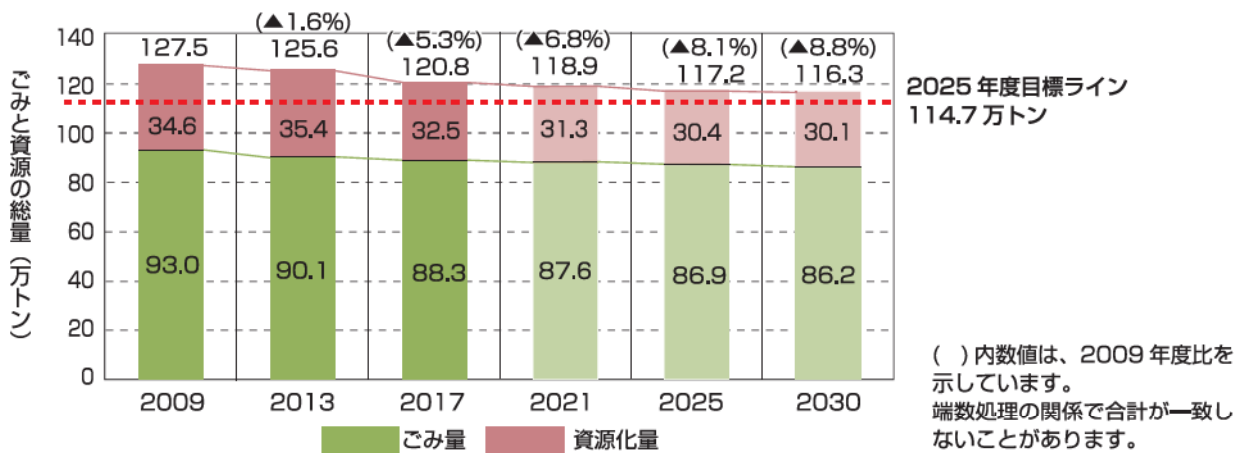


図15 ごみと資源の総量(実績値と将来予測値)

4 ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスの動向

ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスは、2017年度で2009年度比+1.4%(28.6万トン-CO₂)となっており、目標(2009年度比25%以上削減)は未達成です。

ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスの削減に向けては、分別の徹底に加え、焼却工場の発電による相殺効果を高めていくことや、ごみ処理に要するエネルギー消費を抑制する取組を進めていく必要があります。

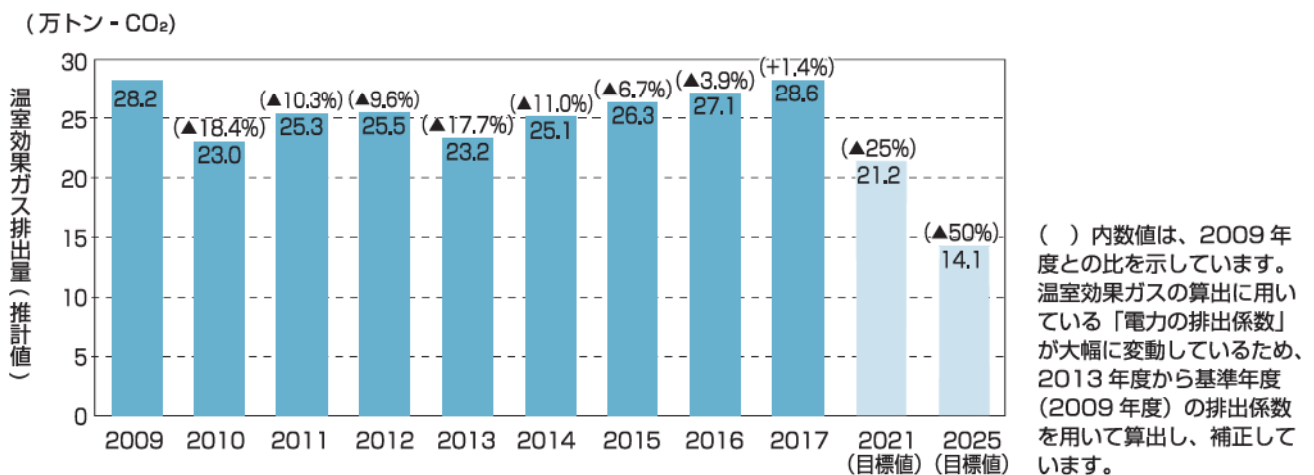


図16 ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス量の推移

2 目標設定

1 基本目標1:ごみと資源の総量の削減

ヨコハマ3R夢プランの「2025年度までに2009年度比で10%以上削減」という目標の達成に向け、この4か年(2018～2021)では、2009年度比で8%以上削減、2017年度比で3%以上削減を目指します。

ヨコハマ3R夢プランの策定から8年経過し、基準年度との比較について実感が得にくいため、主に2017年度との比較で目標と進捗を示していきます。

ごみと資源の総量 (目標)	
2017年度比▲3%以上 (2009年度比▲8%以上)	約117.3万トン

過年度の実績 (参考)	
2017年度	約120.8万トン
2009年度	約127.5万トン

2 基本目標2:ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスの削減

2017年度の目標が未達成となっていることから、2021年度の目標は、これまでと同水準の設定とし、2009年度比で25%以上削減を目指します。

ごみ処理に伴い排出される温室効果ガス (目標)	
2009年度比▲25%以上	約21.2万トン-CO ₂

過年度の実績 (参考)	
2017年度	約28.6万トン-CO ₂
2009年度	約28.2万トン-CO ₂

3 戦略目標

推進計画の基本目標達成に向けて、特に重点的に取り組むものとして、「戦略目標」を設定します。

戦略目標	目標値	備考
① 食品ロス ^{※4} 発生量 (家庭系)	2015年度比 20%以上削減 2015年度推計値：約111,000トン	・家庭から出される18区の燃やすごみの組成調査から推計 ・2030年度までに半減させるペースで2021年度目標を設定
② 焼却工場での 創エネ・省エネに よる電力の効率化 (送電電力量)	2017年度比 5%以上増加 2017年度実績：約2.2億kWh	・発電電力量の増加、未利用エネルギーの活用等による創エネルギー ^{※5} 化 ・照明LED化などの高効率設備の導入や機器運転方法の見直しなどによる省エネルギー化

※4 食品ロス …本来食べられるにも関わらず廃棄されてしまうもの(手つかず食品、食べ残し、過剰除去)

※5 創エネルギー…エネルギーを作り出すこと

4 指標

横浜市唯一の一般廃棄物最終処分場を長く大切に使うため、埋立状況を市民の皆様と共有できる指標を設定します。

項目	指標	備考
最終処分場 残余年数	2017年度時点 50年以上残	・南本牧第5ブロック廃棄物最終処分場について、ごみの減量化及び計画的な焼却灰資源化により延命化を目指す